

会 議 録

会 議 名	令和6年度 山形市いじめ問題対策連絡協議会
開催日時	令和6年 6月 4日 (火) 10:00～11:00
開催場所	1101会議室
主 催	学校教育課
出席者	<p>山形市 佐藤 孝弘 市長 山形県福祉相談センター (山形県中央児童相談所) 阿良 正輝 所長 山形地方法務局 森脇 聡巳 人権擁護課長 山形警察署 田中 恵美 企画調整官 (少年補導担当) 山形人権擁護委員協議会 勝見 祐子 山形市部会子ども委員 山形市青少年指導センター指導委員連絡会 沼澤 義夫 会長 山形市青少年育成市民会議 伊藤 康則 会長 山形市子ども会育成連合会 佐藤 博之 会長 山形市PTA連合会 武田 靖裕 会長 山形市PTA連合会母親委員会 高橋 あゆみ 委員長 山形市社会福祉協議会 今野 厚志 会長 山形市小学校長会 佐藤 昌彦 会長 山形市中学校長会 丹羽 英樹 会長 山形市立商業高校 地主 佳子 校長 山形市教育委員会 金沢 智也 教育長 山形市総務部総務課 奥山 昌敏 課長 山形市健康医療部母子保健課 加藤 明子 課長 山形市こども未来部こども家庭支援課 (こども家庭センター) 丹野典子 課長 (所長) 山形市こども未来部保育育成課 菅江 正幸 課長 学校教育課 横山 尚久 課長 学校教育課 田中 千絵 主任指導主事 (兼) 指導係長 学校教育課 有澤 徹 指導主事 学校教育課 深瀬 慶太 指導主事</p>
欠席者	なし
議 題	令和6年度 山形市いじめ問題対策連絡協議会について
資 料	別紙参照
作 成 者	学校教育課 指導主事 深瀬 慶太

会議経過

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 自己紹介
- 4 報告
(1) 令和5年度いじめの実態について
〈質問〉なし

- 5 協議
(1) 令和5年度事業報告について
〈質問・意見〉

◇	子ども会育成連合会
	いじめ相談ダイヤルについて、不登校の相談が多いとのことだが、不登校のきっかけは何か。
◆	事務局
	人間関係で悩んでいる等の相談があるが、相談員が相談者に寄り添って対応し、学校や関係機関とつないでいる。
◆	議長
	原案どおりとしてよいか。
◇	一同
	賛成。

- (2) 令和6年度事業計画（案）について
〈質問・意見〉

◇	青少年育成市民会議
	いじめ防止啓発標語について、全校対象に行っているのか。
◆	事務局
	全校対象に行っている。
◇	P T A連合会母親委員会
	いじめ相談ダイヤルについて、電話では抵抗のある子もいる。LINE や DM の方が心のもやもやをつかみやすいのではないかと。
◆	事務局
	LINE や DM の方が垣根が低いところがあるので、検討していく。いじめ相談ダイヤルについては、保護者を対象とした場合に生の声を聞くというねらいもある。今後方法や導入について検討していく。
◆	議長
	教育委員会の施策ではないが、「おやこよりそいチャット」という事業もあり、こどもからも LINE での相談がきている。こちらの周知も進めてほしい。

◆	議長
	要望を踏まえた上で、原案どおりとしてよいか。
◇	一同
	賛成。

(3) その他
 〈提案〉なし

6 情報交換

◇	山形県福祉相談センター
	児童相談所と併設。虐待対応が主となっているが、家庭の問題がしわ寄せとなり、こどもが加害者になったりいじめられやすくなったりすることもある。関係機関と連携して対応していく。未然防止も大切だが、いじめが起こった後、どのようにリスタートするのかということが見えてくればよい。
◇	山形地方法務局
	毎年こどもの人権 SOS ミニレターを実施している。届いたミニレターについては、法務局と人権擁護委員が連携しながら、悩みに寄り添って対応している。こども人権 110 番も行っている。こどもの場合は聞き出すことが難しいこともあるが、丁寧に話を聞き信頼関係を築き悩みを相談してもらえるように心がけている。その他「こども人権 SOS-e メール」や LINE 相談、人権教室を開催している。
◇	山形警察署
	警察安全相談の中で少年相談を行っている。いじめや法に触れることについて手続きに沿って処理している。また、各学校で非行防止教室や薬物乱用防止教室を行っているが、情報モラルについての依頼が多くなっている。校内の乱暴な行為について対応することもある。
◇	山形人権擁護委員協議会
	人権教室について、昨年度より中学校でも開始した。人権感覚を養うこと、知識と行動を結び付けることをこどもたちに気付かせていきたい。「人権の花運動」を通して命の大切さを養っている。今年度は小学校 5 校。各協議会の活動をまとめた壁新聞を作成、配布している。小学生を対象に人権書道を行っている。題字を自分で考え書道作品を作成し、表彰も行っている。中学生人権作文コンクールもあり、県代表を選出し、全国のコンクールに応募している。
◇	青少年指導センター
	駅前付近を街頭指導している。ほとんどが明るく返事してくれて、(今後導入される)心の健康観察アプリにたとえば、「晴れマーク」なのだと感じる。朝の挨拶運動も行っているが、中には返事しない子もいる。いじめなのか、家庭の事情なのかわからないが、「晴れマーク」が増えるように声がけしていきたい。
◇	青少年育成市民会議
	県と共催している「いじめ非行をなくそうやまがた県民運動」の一環としていじめ防

	止標語を募集している。小学校は37校、中学校は16校から応募があり各学校代表53作品の中から村山地区青少年育成連絡協議会に提出した。53名に景品を贈呈した。応募総数は6931作品。令和6年度も実施していく。
◇	子ども会育成連合会
	いじめ問題に真摯に取り組んでいただいていることに感謝。KYS（危険予測トレーニング）の中でいじめというキーワードを入れて共有したい。PTAの活動に積極的に参加して発信していく。家庭教育の中でいじめはしてはいけないということを親子で話ができるようになってほしい。子どもを加害者にも被害者にもさせないということをもットーにしている。
◇	PTA連合会
	いじめが原因ではないが、不登校や別室登校が多くなっている。こどもを取り巻く環境が多様化しており、身を置く環境も様々である。その中で、子どもたちがどう考え、どんな環境で教育を受けているか保護者が学ぶことを大切に研修会を行っている。県PTA連合会の「親学」を利用した研修や山形市PTA連合会の研修大会では「ウェルビーイング」をテーマに家庭教育が最適に行われるように取り組んでいる。
◇	PTA連合会母親委員会
	PTA連合会の中にある組織。各学校のPTA会長は父の割合が多く、母親の発言の機会が少ないところがあるが、女性や母からの目線で発言する場を残していきたい。年3回の会議には、ほぼ全ての学校から出席があり、こどものことや家庭のこと、身近な問題について話をしている。第2回は6/20。その中でいじめや不登校もテーマにしていきたい。
◇	社会福祉協議会
	市内に30地区の社会福祉協議会があり、福祉協力員は約1000人いる。地域の課題をいち早く察知し、身近な変化を民生児童委員に相談したり報告したりする体制が取られている。研修会の場でいじめ問題のことについても意識をもってもらえるようにしたい。
◇	小学校校長会
	児童理解や保護者との信頼関係作りを大切にしている。毎月の校長会では、適切に問題解決が図られた例や対応に苦慮した例など具体的に情報交換を行っている。今年度経営の柱として「教育のDX化」と「いじめ・不登校対策」を掲げている。学習会を2回計画しており、臨床心理士によるいじめにおけるこどもの心理やスクールロイヤー経験者によるケーススタディを予定している。
◇	中学校校長会
	いじめの未然防止・早期発見のために教職員は昼休みも教室に残ったり、廊下を見守ったりしている。丁寧にコミュニケーションを取り、生徒の変化に気付けるように生徒理解に努めている。学校によっては希望制の3者面談を行い、悩みを相談できる体制を整えている。校長会の生徒指導部会の中では生徒指導担当者を集めての研修会を企画しており、資質向上に努めている。
◇	商業高等学校

	<p>保護者・生徒にいじめ調査アンケートを行い、丁寧に対応している。人間関係の悩みはあるが、それが即いじめの訴えになるというわけではない。学習や部活動の悩みが多い。面談週間の中で子どもたちの声を聞き取っている。また、本人の悩みを把握するためのアンケートを行っており、何かあった場合にすぐ対応できるチーム体制を取っている。</p>
◆	<p>議長</p>
	<p>各機関の取り組みについて、質問はあるか。</p>
◇	<p>山形人権擁護委員協議会</p>
	<p>先ほどの説明に追加。特別の教科道徳と人権機関との連携についてご検討いただきたい。教科書に人権作文コンテストの作品が掲載されているうえ、「公正公平」「社会正義」などの価値項目もあり、道徳の授業との連携が考えられる。さらに、家庭や地域との連携による指導が大切である。地域の人材や外部の人材が必要であれば、折を見て活用いただきたい。</p>
◆	<p>議長</p>
	<p>本日の連絡会を踏まえ、今後も各機関で連絡を密に取って、強固な連携体制をとっていければと思う。</p>

7 連絡

次回開催は、令和7年6月頃を予定している。